(3)　許容荷重(長期静荷重)P_Lの計算

許容荷重を計算する場合は、次式を参考にしてください。

①　直線的な立上りから急に大きなスリップが始まる場合(図1-Ⓑ)

i　$\dfrac{\text{最大荷重}}{\text{比例最大荷重}} > 1.2$の場合

$$P_{L1} = \frac{\text{比例最大荷重} \times k}{2}$$

ii　$\dfrac{\text{最大荷重}}{\text{比例最大荷重}} < 1.1$の場合

$$P_{L2} = \frac{\text{比例最大荷重} \times k}{3}$$

なお、上記の計算の値がiとiiの中間にある場合は、現場の状況に応じて決めてください。

②　直線的な立上りからゆるやかな山形の2次曲線に近い場合、線に近い場合(図1-Ⓐ)

$$P_{L3} = \frac{\text{最大荷重} \times k}{3}$$

ただし、k…補正係数　0.6～0.8

補正係数kの値は現場の状況に応じて決めてください。

※　・最大荷重、比例最大荷重の値はカタログ上の値で、実験による算術平均値です。

・短期荷重＝長期荷重×1.5

・ヘリあきが埋込み深さの2倍以下の場合は、アンカーの強度が低下しますので注意してください。

・アンカーピッチが埋込み深さの3.5倍以下の場合は、アンカーの強度が低下しますので注意してください。

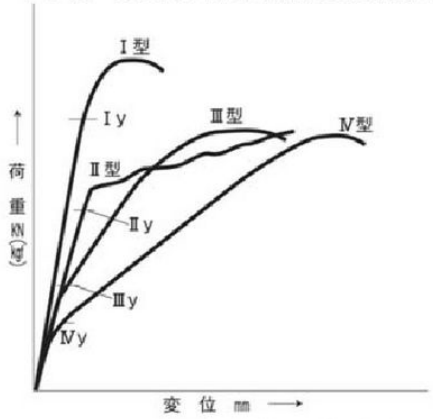

図2.　荷重～変位曲線

図2の曲線で該当する当社の主なアンカーは…

Ⅰ型　サンビックアンカー ……NSLタイプ、NSBタイプ

Ⅱ型　オールアンカー ……Cタイプ、Tタイプ、Yタイプ

シーティーアンカー ……CTタイプ、GTタイプ

Ⅲ型　ボルトアンカー……BAタイプ

グリップアンカー……GAタイプ

Ⅳ型　当社には該当するアンカーはありません。

拡張面積、寸法の小さいアンカーに多く見られます。